寄り添うことの大切さ

吹田市立第一中学校

　　３年　大槻　美稀

　「ちょっと、待ってて。」

と母は言い、私と弟から離れていきました。その先には、白杖を頭の上にあげている人がいました。

　母はその人を駅員さんのところにつれていき、私たちのところへ戻ってきました。

　私は母になぜ、あの人のところへいったのかききました。

　母は、

「白杖SOSシグナルをだしていたから。」と教えてくれました。

　私は、白杖を使っている人は、視覚に障がいがある人だと知っていましたが、SOSシグナルがあるとは知りませんでした。

　家に帰って、調べてみたら白杖には３つの役割があると分かりました。

　一つ目は、障害物に衝突するのを防ぐこと。

　二つ目は、まわりを探ること。

　最後は、目が不自由であることをまわりの人に知らせること、だと分かりました。

　白杖は目の不自由な人の命を守る大切な道具だと思いました。

　さらに、調べていくと、ホームで転落して亡くなった人がいることや、杖の音に、

「うるさいよ。」

と言った人がいることも分かりました。

　とても、悲しい気持ちになりました。

　母がとった行動を、私ができるかなと考えました。そうしていると、晩ごはんになりました。

　食事をしている時に私は母に、

「今日、良いことをしたね。」

と言ったら、母は

「あの時、ちょっと目をつぶってみたの。

　　人の声、足音がすごく怖かった。あの人は本当に助けてほしかったから、勇気をだして、あのポーズをしたと思う。近くに誰かいるかなって思ったけど、あの人の気持ちを考えたら、声をかけることができた。ただそれだけ。でも、あんまり上手に声をかけられなかった。驚かせたらダメだと思い、ゆっくり話しかけようとしたら、声が裏がえった。次は今日より上手にできるかも。」

と言っていました。

　思いやりを持ち、相手に寄り添い、そして次につなげることの大切さを知った日になりました。